

# 臨地実習（成人看護学 / 高度実践コース）

[実習] 1年 後期 必修 90時間 2単位

《担当者名》○神田直樹 [kanda@hoku-iryō-u.ac.jp]  
 桑原ゆみ [yumi-k@hoku-iryō-u.ac.jp]

## 【概要】

学生のサブスペシャリティ領域で求められる実践力強化を目的として、複雑で困難な問題を抱えるサブスペシャリティ領域の慢性病者を受け持ち、慢性病者の病い体験の全体的理解や健康課題の総合的なアセスメントに基づき、慢性病者・家族との目標共有により、セルフケア能力やウェルビーイングを高めることのできる支援を計画、実施する。加えて、サブスペシャリティ領域で特に求められる臨床判断能力や医療技術を習得し、医療を安全に提供できる力を養う。

## 【学修目標】

1. 対話やヘルスアセスメントをとおして慢性病者の病い体験や状況を全体的に理解できる。
2. 慢性病者・家族の価値観、生活、人生を尊重し、パートナーシップを確立できる。
3. 慢性病者・家族のセルフケア能力・ウェルビーイングを高めることの支援を計画、実施できる。
4. サブスペシャリティ領域で特に求められる臨床判断能力や医療技術を習得し、安全、的確に提供できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	実習課題 1 慢性病者・家族の全体的理解	1) 対話をとおして慢性病者や家族の病い体験を全体にとらえる。 2) ヘルスアセスメントにより慢性病者の健康課題や生活課題を総合的にアセスメントする。	神田 桑原
	実習課題 2 パートナーシップの構築	1) 慢性病者や家族の価値観、生活、人生を尊重する。 2) 健康課題に協働して取り組むため慢性病者や家族とパートナーシップを構築する。	神田 桑原
	実習課題 3 セルフケア能力・ウェルビーイングを高める支援	1) 慢性病者・家族が見通しをもって健康課題に取り組めよう計画し、支援する。 2) 病いのコントロールや症状マネジメントに取り組めるよう支援する。 3) 社会資源・制度の効果的活用と多職種協働により慢性病者・家族ウェルビーイングを高める支援を提供する。	神田 桑原
	実習課題 4 サブスペシャリティ領域の臨床判断能力や医療技術の習得	1) 左記に関する自己課題（例；薬剤調整、医療機器の使用など）を明確にする。 2) 自己課題の達成に向けて、実習指導者のスーパーバイズを受けて、安全、的確に実施できるよう準備して取り組む。	神田 桑原
	【実習場所】	学生のサブスペシャリティ領域や実習計画に沿って、実習課題が達成可能な実習場所を学生と相談、決定する。	
	【実習方法】	実習指導者や指導教員のスーパービジョンを受けながら学生のサブスペシャリティ領域の慢性病者を受け持ち、総合的なアセスメントに基づく支援の提供を実践的に学ぶ。	
	【実習期間】	おおむね2週間。 但し、課題達成状況により延長する。集中実習か分散実習かについては学生の实習課題や学習状況により相談・決定する。	

**【授業実施形態】**

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

実習準備状況20%、実習評価表50%、実習レポート30%

**【教科書】**

実習要項を参照

**【参考書】**

パトリシア R アンダーウッド著，南裕子監修：看護理論の臨床活用 パトリシア・R アンダーウッド論文集，日本看護協会出版会，2003.

その他随時提示する。

**【学修の準備】**

学生のサブスペシャリティ領域における実践能力を高める上での、自己の課題を明確にして、実習計画を立てて臨むこと。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。